

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690100231		
法人名	特定非営利活動法人 リアル・リンク京都		
事業所名	柏野の郷 グループホーム(さくら)		
所在地	京都府京都市北区紫野中柏野町22番地		
自己評価作成日	令和3年1月31日	評価結果市町村受理日	令和3年4月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各利用者が思い思いに生活して頂ける様、職員と利用者との垣根のない環境作りにも努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&UgyosyoCd=2690100231-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上の梅湊町83番地1「ひと・まち交流館京都」1階
訪問調査日	令和3年3月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

柏野の郷グループホームは、特定非営利活動法人リアル・リンク京都の傘下として、平成30年3月に開設されました。さくらユニットの平均年齢は89.3歳、平均介護度2.8です。基本理念「家庭的な暖かい雰囲気の中でその人らしさを大切にする」を掲げています。コロナ禍でのこの1年は利用者の安全と衛生面は細やかに観察し、体調に変化が見られた時は早めの受診をおこない、体操やレクリエーション活動を充実させました。日本環境衛生普及協会に事業所内の菌検査を依頼して、清掃の見直しや改善に取り組んでいます。課題としている人材育成は、介護労働安定センターに依頼して、研修計画を立案し始動しています。利用者から「なぜここにいるんだろう」と問いかけられた時は「一緒に考え話し合うようにしています」との、職員の言葉があります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を踏まえ、都度確認または話し合いの場を設け共有するよう心掛けている。	理念を踏まえ、さくらユニット年間目標『①各一人一人にあった身体・頭の体操を週2回以上行う②入居者様それぞれの心身面の状態を把握し「気づき」の観点をもって接する③今持てる力を引き出し、またその力を維持できるよう一日一回レクリエーションをおこなう』を掲げ、毎月のユニット会議で振り返りをしている。職員は、利用者の好みや生活への要望を聞き、入居前の生活環境に少しでも近づけるように努めている。	ユニット目標をより具現化した行動計画を作成してはどうか。何を、どのような方法で、いつまでになど、文章にすることで可視化でき、振り返り時にも有効に活用できるのではないか。検討を期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの影響によって地域との交流が乏しくなっているが、常に地域からの意見に耳を傾けられるよう心掛けている。また、運営推進会議を今年度ほとんど行っていないが学区内を始めとした各関係各位に運営状況をまとめた冊子を配布し情報を公開しながら意見も募っている。	今年度は学区花見会や地藏盆、区民運動会、家族の方のピアノ演奏会など、すべて中止している。新型コロナウイルス収束後は、近隣の小学3年生の福祉授業での来所を再依頼する予定がある。2か月毎の訪問美容は継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルスの影響に伴い行えていないものの、常に開かれた施設の在り方を考え、今後状況に応じて祭りや地域カフェ等の開催を考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスの影響に伴いほとんど開催出来ていないが、開催の有無に限らず、運営状況に関する質問等随時受け取り、サービス向上に努めている。	会議メンバーは、利用者、家族(3~4人)、自治会長、町内会長、地域包括支援センター職員である。現在は書面会議である。メンバーより「コロナ禍の対策をおしえてほしい」や誤薬に対する意見がある。事業所からコロナ対策として、衛生面の実施や健康管理の詳細、日本環境衛生普及協会に菌検査を依頼して清掃や環境衛生の改善に取り組んでいる現状の報告がある。議事録は全家族に送付している。	

京都府 柏野の郷 グループホーム(さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市や区の福祉介護課、生活保護課との連携を常に行っている。	行政には、運営推進会議の議事録を届けたり、諸制度や手順など電話での相談を適時おこなっている。生活保護課職員の訪問が年1回あり、利用者の諸相談をしている。今年度は市や地域包括支援センター主催の会議は中止である。近隣の9施設で構成する「在宅生活を支えるための介護・医療連携の在り方を考える会」に参加しており、地域や他事業所情報を得て連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践の為、法定研修や委員会の実施により職員全体で知識を深めると同時に実例から現状のケアの在り方を見直せるよう取り組んでいる。	「身体拘束廃止に関する指針」を作成している。「身体拘束・権利擁護委員会」を法人3施設合同で開催し虐待も検討している。当事業所職員も委員として出席し、議事録は各ユニットで回覧してユニット会議でも話し合っている。しかし、職員の話し合った内容確認はできなかった。足元に設置するセンサーマット使用者は家族の同意を得ている。ユニット入り口は施錠しており、外に出たい言動があった時は玄関前で気分転換している。	身体的拘束等の適正化について、ユニット会議での話し合いの内容が確認できなかった。委員会では、虐待を含め話し合っているとのことでしたが、現場でも話し合った内容や気づきの発言など議事録を取り、法人会議に提案をするなど積み重ねていかれることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法定研修の参加や委員会を設置し、各職員が知識を共有しながら実例を踏まえて、現状の見直しを都度行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法定研修の参加、委員会の設置により、各職員が知ることや学ぶ機会を増やし現実的に応用出来るよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は十分な時間と環境を設け説明を行うと同時に必要に応じて書面上での案内を行い安心につなげることが出来るよう努めている。		

京都府 柏野の郷 グループホーム(さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月お便りとして日々のご様子や写真の送付を行っている。また、面会時や電話、サービス担当者会議等において意見や要望を伺い、サービス向上に努めている。	面会時や運営推進会議、サービス担当者会議などで家族の意向を聞く機会を持っているが、現在はサービス担当者会議前や随時の電話で諸要望を受けている。「氷川きよしのCDを聞かせてほしい」「夜食を準備してください」などの要望にも対応している。3月に顧客満足度調査をおこない、現在集計中である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝、夕の申し送りやユニット会議、申し送りノートを活用し都度職員から意見や要望を聴取し反映に努めるほか、適時各職員との面談を行い、直接的に話し合う場を設けている。	ユニット会議での意見、要望は、主任が管理者に報告して、主任会議でも検討している。風呂介助の時間に合わせた勤務時間の変更や足浴用バケツの購入など決めている。ユニットで使用できる1か月の運営予算があり、備品の整備やレクリエーション活動に使用できる。人事考課の個人面接(年2回)は主任が担当し、職員は個々の目標をもって臨みアドバイスを受けている。主任は管理者から面接がある。新人研修にオリエンテーションブックと業務チェックシートを作成し、活用してマンツーマン指導の体制がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給休暇の消化に努めるほか、個々の状態に合わせた勤務を検討すべく、都度各職員と話し合いを設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講師を招いた研修開催の他、各自が希望する研修への助成その他をバックアップし、一人一人のケアの向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウィルスの影響に伴い、同業者と交流する機会が少なくなっているが、地域の医療連携の為、会議に管理者が参加し包括的な取り組みを他事業所との協力で目指すと共に、今後はリモートの活用を通じて交流の機会を増やしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談時から計画作成者も同行し生活状況を把握することによって全体像を捉えられるよう努めている。また、十分な説明を行い今後を安心して過ごして頂けるよう心掛け、ご本人との会話等の中から思いをくみ取っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	計画作成者が同席し、十分な説明のもとご家族との関係を構築するよう努めている。ご家族の意向や要望も踏まえたケアプランの作成に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に状態や生活歴、好み等を把握すべくアンケートをご家族にご協力して頂き、それを基に全体像を確認出来るよう努めている。また、CM、NS、Drの意見を基にサービスの精査を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者一人一人の意向の確認を踏まえ、どんな思いを持たれているかを職員間で常に共有し合い、ご利用者の目線に合ったケアの提供を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等において、都度近況報告を行うと共に写真付きのお便りを送付している。サービス担当者会議を筆頭に、ご家族の意向を確認し共にケアの在り方を模索、決定(選択)していくと同時に役割の担い手の一人としてご本人に関わって頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍において、馴染みの人や場との関係継続には難をきたしているが、ビデオ電話等を用いて工夫を行うと共に利用者によっては手紙のやり取りを通じて人との交流を深めておられる方もいらっしゃる。	アセスメントシート(生活史)に、今までの暮らしやこれからの生活への希望、意向、趣味など記入がある。趣味は計画立案して継続を図っているが、将棋やマージャンはコロナ禍で困難な状況がある。できることの役割をもった生活は支援している。親しい人とは、テレビ電話や手紙のやり取りをしている。職員は家族に毎月日常の様子をお便りに書き、写真とともに送付している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活歴や性格、価値観、意向を確認し、他者との相性等考慮しながら座席の配置を考えている。また、家事やレクリエーション等を通じてご利用者同士の関係性の構築を深めて頂けるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の意向に伴い、他施設、医療機関等へ転所された方について情報提供等の連携を行っている。また、転所に伴う不安等の相談を密に受け、必要に応じて転所先をご家族と共に探したり、見学を同行している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の状態の変化や思い等を常に確認しながらプランに反映していくと共に、申し送りやユニット会議において職員間での共有に努めている。	日々の生活の中で聞き取った利用者の意向は、ケース記録と申し送りノートに書き引き継いでいる。利用者の担当職員がおり、より深いかわり関係樹立を図っている。意思表示が全くできない方はおられないが、利用者の表情をよく観察しながら話をし、意思を表現しやすい言葉かけや否定的なことはいわない、大きな声は出さないなど統一している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートを用い、一人一人の生活歴や習慣、生活環境、好み等を把握出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートの活用やユニット会議によって、職員間で共有を行っている。また、担当の利用者を決め、各職員が毎月モニタリングを実施し継続して現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議内での意見をはじめとして、ケース記録や毎月のモニタリングの活用、医療との連携を含め、現在の状態に即したケアが出来るようサービス担当者会議を念入りに行い介護過程の展開に努めている。	介護計画の見直しは、入居後1か月と3か月ごとを1年間おこない、その後6か月ごとに実施している。サービス担当者会議には利用者と家族の参加も基本としているが、今はコロナ禍でできていない。モニタリングは担当職員が経過記録やユニット会議での話し合いから、毎月モニタリング表に記録している。介護課題は、心身面や趣味の継続など丁寧に立案している。経過記録に課題に沿った記録を取り入れている。	

京都府 柏野の郷 グループホーム(さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録にケア内容や気づき、状態の変化やケアの工夫を記録している。情報の共有の為、必ず出勤時に記録を確認すると共に申し送りノートの活用によって情報の漏れを防ぐよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望に応じて既存の食事内容に捉われず、出前等に対応し食の楽しみを持ち続けて頂けるよう心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスの影響に伴い、地域資源との協働が希薄となってしまっているが、今後も地域資源を把握しながらご利用者一人一人に合った活用の仕方を考えていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者、ご家族の意向を踏まえながら、訪問診療(内科)の実施、また訪問歯科の利用を行っている。ご家族には随時往診の内容についてご報告し連携を行っている。協力医やNSとは24時間オンコール可能であり、適時相談が出来る。	かかりつけ医の選択は自由であるが、利用者は全員協力医療機関を選び、月2回の訪問診療を受けている。主任が立ち会い、状況は介護記録に記録し職員で共有している。毎月、医療機関から診療内容が家族に届く。医師、看護師ともに、24時間相談できる体制にある。必要に合わせ、歯科医・歯科衛生士の往診や訪問マッサージを受けている方がいる。緊急時は医師と相談し救急搬送をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者ごとの協力医所属先のNSと24時間いつでも相談出来るよう関係性の構築を行っている。また、相談内容によっては随時往診の体制が整えられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中においても各医療機関の相談員、NS等と密に連携し合い情報交換等に努めている。また、カンファレンスにおいて積極的に参加し今後の方向性について話し合いや関係性作りを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約の際から事業所の指針を伝えると同時に、状態の変化が見られた際も同様に意向の確認や主治医の意見を踏まえ、都度話し合いの場を設けている。	契約時に、ターミナルケアや病状が重症化した場合の対応、看取りが現段階ではできないことなどを説明して、家族の了解は得ている。現在、医療体制や職員体制など検討中であり、看取りをおこなうかどうかは、決められていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応方法において、都度事例等を踏まえながらユニット会議等で確認と共有を深めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練を行っている。一回目、二回目共にコロナ禍の為消防署認知の上、立ち会いなく職員とご利用者のみで昼間想定避難訓練を実施している。今後は、夜間想定訓練も行っていきたい。	今年度はコロナ禍であり、年2回の防災訓練は昼間の火災を想定して、事業所独自でおこなった。初期消火の手順の確認や利用者との避難を実施している。中柏野町町内会と「近隣防災協定」は締結しているが、訓練時の協力関係はない。自然災害対策マニュアル(火災、地震、風水害)は作成しているが、それを活用した研修や訓練はできていない。備蓄はスポーツリンクと介護用品などがある。	コロナ収束時には、消防署に依頼して火災の夜間想定訓練や自然災害に対する訓練の継続を期待する。救急救命(AEDの取り扱いを含む)研修も毎年の実施を望む。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	委員会の立ち上げによって、事例を用いての現状の見直しを行うと共に、研修を通じてより細かく職員間での共有を行えるようになってきている。	法人3事業所で「接遇・PR委員会」を定期的に開催し職員は委員として参加している。会議録は回覧してユニット会議でも話し合っている。また、事例を職員に配布して各職場で討議している。研修計画は、昨年の9月から「介護労働安定センター」にも依頼して組み立て、毎月計画に沿って開催している。接遇やマナーなど参加した職員は伝達研修をしている。職員気になる言動は、主任が助言したりユニット会議で議題にしている。今年度の目標達成計画として取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常にご利用者一人一人が自己決定や選択ができるよう、その人その人に合った対応の仕方を考えている。		

京都府 柏野の郷 グループホーム(さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者一人一人の生活歴等を参考に、思いや希望がどのような形で持たれているかをご家族も含め一緒に考え、支援に活かせることが出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その時々でどのような身だしなみやおしゃれをしたいのかを都度確認し、好みに応じて自由に選択出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者一人一人の好みに応じた食事メニューになるよう工夫すると共に、毎月実施している食事レク等にも食の楽しみを反映させたものになるよう努めている。	おかずは業者から弁当型の容器で届く。一口大や刻みなどへの対応も可能である。炊飯は事業所でしている。利用者は、片づけや皿洗い、盆拭きなど役割がある。月に2回、利用者の希望に応えるメニューで、食事やおやつのレストランを実施している。利用者が調理で活躍できる場を提供しており、生き生きとした姿や笑顔が見られる。巻きずしやちらし寿司は好物である。おやつはぜんざいやパンケーキなど甘いものが多い。宅配のピザも喜ばれる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	都度主治医やご家族、ご本人と相談しながら一人一人の状態に合わせて食事や水分形態を考慮したり、希望に応じた食事量等にも心掛けている。また、ADLに合わせて器や自助具の検討を行うと同時に食事提供時間にも気を配りながら、ご自身で美味しく食べられる環境作りを行っている。場合によってはPT、STにも協力を仰ぎ、食事介助の適正化を図っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後に口腔ケアを実施し、希望者には訪問歯科による口腔内の点検及び口腔ケアを受けて頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	布パンツや紙パンツで出来る限り過ぎて頂けるよう排泄記録を用いパターンを把握して声掛けや誘導を行っている。また、日夜問わずテープ式のオムツを使用されている方においても、状態に応じて可能であればトイレ誘導を行いトイレでの排泄を支援している。	排泄の様子を記録し、タイミングで声かけや誘導をして、トイレでの排泄を基本としている。半数の方は布パンツである。紙おむつの方にも、昼間のトイレ誘導はおこなっている。夜間の安心のためにポータブルトイレを居室に置いている方もいる。	

京都府 柏野の郷 グループホーム(さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医に相談しながら下剤の調整のみならず、水分量や運動も考慮し適切な排便コントロールが出来るよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	同性介助を前提とし、出来る限り希望に即した時間や日程を考慮している。また、柚子湯や菖蒲湯等季節ごとの楽しみを折り込みながら、気持ちよく入浴して頂けるよう努めている。	週2回以上の入浴を提供している。午前か午後かの入浴時間や入浴剤の使用など好みを聞いている。入浴時は、利用者が滑らないようせかさない言動で対応して、昔の話や歌を傾聴している。リフト付きシャワーキャリーが設置してある。季節湯(しょうぶ湯・ゆず湯)の提供がある。入浴後は保湿剤を塗布している人もいる。夜間に足がだるく眠れないと訴える方に、足浴を介護計画にあげ支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温、湿度、照明の調整を都度ご本人と相談しながら整え、前夜の睡眠状態に応じて日中でも休息が取れるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容がわかるよう情報をまとめている。また、主治医とこまめに連絡を取り変更時も周知の為記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴やご本人、ご家族の意向を確認し、楽しみにつながる事柄の発見に努めている。また、希望者には夕食時にワインを提供する他、映画鑑賞等楽しみが継続出来る環境作りを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	当施設においては、コロナウイルスの影響に伴い、一律して外出支援は受診時を除き当面行わない方針である。	コロナ禍では、病院への受診以外の外出はしていない。外に出たがる利用者には屋内の歩行や玄関先で外の様子を見るなどして対応している。外出できない代わりに、脳トレも含めたテレビ体操とオリジナル体操(15~20分)、廊下歩行、階段の上り下りなどをして、筋力の低下防止を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には職員預かりとさせて頂いているが、希望によってはご本人が少額程度の金銭を管理されている。		

京都府 柏野の郷 グループホーム(さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時等、自由に電話が出来る環境を整えると共に、便箋を購入し手紙のやり取りが随時行えるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コロナウイルスの影響に伴い、より一層衛生面には配慮している。 ご利用者と一緒に作った作品を壁に掲示する他、季節感を取り入れたお手製のカレンダーをはることによって一目見ただけで日付がわかるよう工夫している。	リビングや廊下には、習字やぬり絵の作品や行事時の写真、季節に応じた飾りもある。壁には利用者と職員が毎月手作りする大きなカレンダーがある。また、メダカを飼育して餌やりの担当は利用者である。テーブル2つを連ねて食事や談話をし、1つは離れて置き、後ろにはソファでくつろぎの場所がある。もみじユニットでは、今年度目標達成計画に「フロアの整理整頓」を挙げ取り組んだ。個人ファイルや口腔ケアセット収納場所の整備や物品ケースに明示など、自ら働きやすい環境を整えている。清掃はマイクロファイバークロスで拭くことも取り入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにソファを設け、自由に使用して頂くと共に座席を固定型にせず、お好きな場所でくつろぐことが出来るよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの家具や物品類を持って来て頂き、居心地の良い空間作りに努めている。中には音響セットやDVDプレイヤーを持って来られ思い思いに過ごされている方もいれば、ご自身の作品であるタペストリーを持参され、他のご利用者に説明される方もいらっしゃる。その方に合わせた生活空間を都度検討している。	職員は家族に、キャスター付きの物や高さのある物は、安全面から持ち込まないように依頼している。家から馴染みの家具やテレビ、椅子、家族の写真、自作の刺繍(モラ)作品やクッション、DVD、CDコンボなど、それぞれ利用者の趣味や好みが見える居室の設えである。清掃やリネン交換は利用者と職員でしている。毎日の清掃で、廊下をフローリングワイパーで拭かれる方がいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室等の位置を分かりやすく明示されている他、常に整理整頓を行い、ご利用者の目線に立って環境作りに心掛けている。		